

会議録

会議名	令和5年度（2023年度） 第1回八王子市スポーツ推進審議会	
日時	令和5年（2023年）8月9日（水） 19:00~20:30	
場所	八王子市役所 本庁舎 802 会議室	
出席者氏名	委員	池田美枝、薄井信一、鈴木紀幸、松井秀夫、松本佐登美、泉慎一、橋本和秀、園山直樹、作野誠一、高田彬成、白石幸平（名簿順）
	事務局	志萱龍一郎（スポーツ担当部長） スポーツ振興課：谷靖之（課長）、北村亮（課長補佐）、柴崎淳（主査）、花坂健介（主査）、内田美砂（主任）、阿部裕也（主任） スポーツ施設管理課：佐取久満（課長）、阿部俊平（主査）、鈴木悠也（主査）
欠席者氏名	澤本則男、三浦壮次、林廣子	
議題	次期スポーツ推進計画の策定について	
報告案件	IFSC ボルダーワールドカップ 2023 八王子の実施結果について	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	次期スポーツ推進計画の策定について…資料1-1 八王子市スポーツ推進計画の取り組み状況…資料1-2 IFSC ボルダーワールドカップ 2023 八王子の実施結果について…資料2	

【会議の内容】

〈開会〉

発言者	内容
作野会長	審議会開会に先立ち、打越中学校の木内委員が人事異動により審議会委員をご退任され、同校の三浦先生が後任者となりました。残念ながら本日は都合により欠席のため、次回審議会にて改めてご紹介させていただきます。 ただいまの出席委員数は11人です。条例第5条第2項の規定による委員の過半数に達しておりますので、本審議会は有効に成立しています。 本日の進行は、お手元に配付の次第のとおりです。配布資料について、事務局よりご説明をおねがいします。
谷課長	〈資料確認〉
作野会長	会議の公開及び会議録の作成について、「八王子市附属機関及び懇談会等に関する指針」に基づき、原則、会議は公開となっています。本日は非公開とすべき案件はございません。 また、会議録は、会議の公開・非公開に関わらず作成して公表することになっています。会議録の公表にあたっては、要点筆記で作成し、委員の皆様にご確認をお願いし、会議終了後1か月を目安に市ホームページで公開します。

作野会長	<p>これらのことについて、御異議ございませんでしょうか。</p> <p>《特になし》</p> <p>御異議なしと認め公開とします。</p> <p>《傍聴人なし》</p> <p>それでは、次第に従い進行します。議題の「次期スポーツ推進計画の策定について」事務局よりご説明をお願いします。</p>
谷課長	<p>前回の審議会の際もお伝えしましたが、現行のスポーツ推進計画は令和6年度で満了となるため、次期計画の策定にあたり、現計画のまとめと次期計画の方向性について、皆様と協議のうえ決定していきたいと考えております。</p> <p>それでは資料1-1をご覧ください。</p> <p>まず、スポーツ推進計画について、簡単にご説明いたします。</p> <p>本計画は、基本理念を「スポーツとともに生きる」、基本方針を「生涯スポーツ社会の実現とスポーツを通じたまちづくり」とし、平成26年度から令和6年度までの11年間、本計画に基づく取り組みを進めてきました。</p> <p>本計画では18歳以上の方が週1回以上スポーツをする「スポーツ実施率」と「総合型地域スポーツクラブの数」を数値目標に設定しており、その推移がこちらの表になります。</p> <p>スポーツ実施率については、速報値ではありますが、今年度初めて目標越えを達成しております。総合型地域スポーツクラブについては残念ながらクラブの増設に至っていないという状況になります。</p> <p>続いて基本施策と取り組み状況です。本計画では5つの基本施策を掲げており、基本施策ごと、課題解決に向けた「施策の方向性」を設定し、それらに紐づく取り組みを行ってまいりました。詳細の取り組みは資料1-2に書いてあるとおり、やや遅滞している取り組みは3つほどありますが、概ね順調に取り組んでいる状況になります。</p> <p>なお、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクションとレガシーにつきましては、「大会に向けた」としていることから「完了」と標記しておりますが、大会後も実施できる取り組みは今後も継続していきたいと考えております。</p> <p>現行のスポーツ推進計画の説明は以上となります。</p> <p>次に、基本施策ごと、現行計画の成果と課題についてご説明いたします。資料をめくっていただきまして、最初に「基本施策1 ライフステージ等に応じたスポーツの推進」です。</p> <p>市民一人ひとりのレベルや思考、環境に見合ったスポーツ活動を推進することにより、だれもがスポーツを身近に感じ、日常的にスポーツを楽しむことができるよう努めていくもので、呼称のとおり、計画期間中は多様なニーズに対応したスポーツ事業を実施することができました。詳細は資料1-2に記載がございますが、主なものを抜粋すると「市民スポーツ大会をはじめとする各種スポーツ大会、教室の開催」「障害のある方もない方も参加できる市民ボッチャ大会の開催」「指定管理者や市民団体が実施するスポーツ事業も充実してきていること」などがあげられます。</p> <p>参考として、八王子市だけでなく、市内の3体育館で実施しているスポーツプログラムの延参加者数の表をこちらに掲載しております。</p> <p>こちらの施策の課題としましては、生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツをするきっかけづくりの取り組みや、働き盛り、子育て世代、障害者といったスポーツ実施率の低い層に</p>

谷課長

対するアプローチが今後ますます重要になっていく、といったことがあげられます。

続きまして「基本施策2 スポーツをする場の整備・確保」です。

成果としては、計画期間中、中長期保全計画、スポーツ施設個別管理計画に基づき、施設の適切な保全を実施しスポーツをする場の整備確保をすることができました。

主な取り組みとしましては、富士森公園陸上競技場の改修工事や甲の原体育館の大規模修繕といった施設の保全の取り組み、上柚木陸上競技場の第2種公認工事といった、施設の利便性向上などがあげられます。

参考に、各運動施設の利用状況及びプールの利用状況を掲載しております。

課題としましては、今後も施設の維持管理、改修を適切に実施していくとともに、より効果的な運用のため、指定管理者制度の未導入施設についてもそのあり方を検討していく必要があることなどがあげられます。

また、身近なスポーツをする場となりうる、小中学校の学校開放制度の見直しについても、検討する必要があると考えております。

続きまして、「基本施策3 スポーツ情報の充実」です。

市民がスポーツに興味・関心を持ち、スポーツ活動に結び付くようスポーツ情報の充実を図るもので、広報をはじめ、ホームページやSNS、直近ですと、動画配信など多様な媒体を活用し情報を発信することができました。

主な取り組みとしては、スポーツ情報のほか、大会等で優秀な成績を収めた方の表敬訪問の様子をホームページ・SNSに掲載し発信したほか、最近では、紙ベースではなくWEBを活用したアンケートを実施し、参加者のニーズ把握に努めていることなどがあげられます。

課題としては、現状八王子市が行うスポーツ情報のみ発信している状態であることから、スポーツ情報の充実に向け、スポーツ協会やレクリエーション協会をはじめとしたスポーツ団体のイベント情報についても発信していく必要があると考えております。

続いて、「基本施策4 スポーツを活用した地域づくりと八王子の魅力発信」です。

こちらは、スポーツを活用した地域活性化の取り組みやスポーツ団体との連携、支援を目的とした施策で、成果としては、スポーツ協会、レクリエーション協会をはじめとする様々な団体と協力しながら事業を実施することができた点や、地域スポーツ振興の担い手である、スポーツ推進委員によるポッチャ派遣指導の拡充などが成果としてあげられます。

主な取り組みとしては、この後ご報告させていただくボルダーワールドカップなどの開催による地域の活性化や魅力発信、スポーツ推進委員によるポッチャ派遣指導の充実、総合型地域スポーツクラブの活動に対する補助金や備品修繕などの支援などがあげられます。

課題としては、総合型地域スポーツクラブにおきましては、クラブにより生い立ちや考え方が異なるため、活動支援の内容やクラブ間の連携については、今後検討、調整が必要であること、各競技団体においては、人口減少、指導者不足等により大会運営などが困難な状況になっていることも見受けられます。

また、総合型地域スポーツクラブについては、新規設立の目途が立っていないことがあげられます。

続いて、「基本施策5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたアクションとレガシー」です。

谷課長	<p>こちらは東京 2020 大会後、本市の財産となるレガシーを見据えて各種取り組みを行うもので、成果としては、コロナ渦での開催となりましたが、自転車ロードレースや聖火リレーといった開催支援を行ったほか、アメリカ合衆国スポーツクライミング代表チームの事前キャンプを受入れ、オリンピック・パラリンピアンと触れ合う機会創出など、大会を契機に様々な取り組みができた点です。</p> <p>課題としては、大会に向けた取り組んだものを一過性にするのではなく、これを機に行った取り組みを今後も継続していくことが重要であると考えております。</p> <p>以上で、現行のスポーツ推進計画の成果と課題についての説明を終わります。</p>
作野会長	<p>ありがとうございました。一旦ここで区切って議論をしたいと思います。現スポーツ推進計画の成果と課題について、事務局よりご説明いただきましたけれども、ここまでの話について、それぞれのお立場から、詳しく、わかりにくいといった点があれば、コメントでも結構ですのでご発言いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
高田委員	<p>ご説明ありがとうございます。非常に順調に取り組んでいるものと、やや遅滞しているものの、取り組みが概ね順調に進められているということで、ほっとしている次第です。質問があります。スポーツ実施率について、この数値はどのように計っているのでしょうか？どういう方式で、何名ぐらいの委員の中の何%のなど、お教えいただきたい。</p> <p>2点目です。総合型地域スポーツクラブの推移についてですが、目標値は27団体ということで、当初はそのくらいの見込みだったと思いますが、残念ながら増えてこないということについて、振り返りをどのようにお考えになるのかを伺いたいと思います。</p> <p>もう1点、スポーツをする場の整備・確保について、施設の維持管理を進めてくださっていますが、指定管理者の未導入施設について、指定管理制度を100%とするお考えなのでしょうか？また、未導入施設が何か所あるのか、数字があれば教えていただきたいと思います。最後に、働き盛り・子育て世代という表現についてですが、今はこの表現はあまり使っていないです。20代30代なののでしょうか？そうすると、40代50代は働いていないということになりますので、この表現は修正をお願いできればと思います。ターゲットの世代があれば、その世代を具体的に示した方がよりわかりやすいと思います。</p>
作野会長	<p>質問が4つありました。スポーツ実施率の測定、総合型地域スポーツクラブの評価、指定管理者制度未導入施設に関するご質問、働き盛り世代という表現。こちらについて、事務局いかがでしょうか？</p>
谷課長	<p>まずスポーツ実施率についてですが、毎年八王子市で市政世論調査というものを行っています。そこで、数字を取っているものでして、母数が今回は2,385。何人に出しているのかちょっと今はわかりませんが、毎年同じような形で、市の広聴課という部署が行っている調査で取っている数字になります。</p>
高田委員	<p>その中に質問項目があって、それに答えていくというもの？</p>
谷課長	<p>そうです。</p>
高田委員	<p>無作為に選んでいる18歳以上の市民に対して、回答率は5割くらいでしょうか？</p>
谷課長	<p>そのとおり。平均で5割くらいの回答率と聞いています。</p>
高田委員	<p>ありがとうございます。</p>
谷課長	<p>続きまして、総合型の数字についてですが、八王子市の総合型地域スポーツクラブの生い立ちとして、地区体力づくり協議会というものがそもそも前身としてあり、それが八王子市の中に区域を分けて23地区存在していました。総合型の立ち上げに向け、それぞれの地域体力づくりへ働きかけたことがスタートになります。その中で、19団体に総合型地域スポーツ</p>

谷課長	クラブになっていただきました。23 地区のうち 27 になっている経緯としては、そのうちの 3 地区がさらに細かく分かれる可能性が当初あったことから、23 ではなく、27 団体という目標設定を行っていたようです。その動きの中で実際にできたのが 19 団体ということになります。地域体力づくりという形のまま活動を継続している団体もあり、総合型として存在し、活動を行っているのが 19 団体です。
高田委員	令和に入り、平成 26 年から数字が変わらずに来たわけですが、この数字を目標値に少しでも近づけようという施策、努力があったと思いますが、その振り返りを教えていただきたい。
谷課長	母体である地区体力づくり協議会に対し、組織を改めていただけないか、といったように直接働きかける、総合型になった際こういった支援をしていくかなどの説明を行いました。増えるには至りませんでした。アプローチの仕方として、こちらからすると、半分お願いをするようなことしかできなかった、という部分もあります。こちらのお願いに対して、あまりメリットを感じていただけなかったのだと思います。現在としては、総合型も人員不足、経済的な課題などもあることから、今後は数を増やしていくことは困難な状況であると考えています。それぞれの団体の質をどう高めていくか、連携をどう強めていくかが課題と捉えています。
佐取課長	指定管理者につきましては、施設担当からご説明いたします。未導入施設を 100%指定管理にするのかという話についてですが、資料に「より効果的な運用」と記載があるように、すべての施設を指定管理者 100%という考えではなく、委託、地域への開放などを含め、より効果的な方法で開放できる手段を模索中という形になります。現状の数については、未導入施設のうち富士森公園内の運動施設は公園全体を含め、指定管理者募集中ですので、それを除いて、運動場と呼ばれる箇所が 4 か所、公園内運動施設が 1 か所、都の公園内にあるプール、こちら設置管理になっておりまして、こちらが 1 か所、未導入施設は、予定がないものという意味合いで行くと 6 か所になります。以上です。
谷課長	では最後、働き盛りという表現についてですが、こちらについては、市政世論調査において年代別のスポーツ実施状況がわかります。こちらの数字を見ると、30 代 40 代のスポーツ実施率が低かったため、この年代層の実施率を何とか上げられないかということで、我々がやっている健康体操教室において、働き盛り世代向け健康体操教室という形にして、夜間に教室を実施しました。年代的な部分に対する表現について、より適切な表現を検討する必要があるかもしれませんが、ターゲットとしてはその層になります。
佐取課長	先ほどの施設のことで、屋外運動施設について説明しましたが、富士森体育館が抜けておりましたので、未導入施設について、富士森体育館 1 館追加となり、未導入施設については 7 か所となります。
作野会長	私から 1 点、現行の計画の中で、情報について強調されていますが、今後の課題として、市民に様々なスポーツ情報が行き届くように、スポーツ協会、レクリエーション協会など、市内の団体の情報発信を、ということですが、これについて、スポーツ協会、レクリエーション協会それぞれの立場の意見を聞きたいと思います。いかがでしょうか？
鈴木委員	スポーツ協会もホームページを持っており、市民向けの情報発信をしているのですが、例えば、市のホームページの中で、9 月に市民スポーツ大会があるが、そういったイベントが、例えば駅伝はわかりやすいが、市民スポーツ大会があることがわからない。大会の規模にもよるのでしょうか、できればこういう時期だけでも、市のホームページのイベント情報に乗せていただき、スポーツ協会のホームページへリンクするなどしていただければ、より入りやすいと思います。 スポーツのページがあることは承知しておりますが、なかなか目に留まらない。イベント情

鈴木委員	報のところだけでも飛べるように乗せてもらえればと思います。
薄井委員	スポーツをやるときに、高齢化が目立つ。新しくスポーツをする人の募集は各団体でやっていると思うが、市報に出しても小さな枠しかもらえない。他の区では、いろいろなスポーツが体験できるような取り組みを推進課が行っています。いろんなスポーツが1回ずつ体験できるので、何かスケジュールを作って、何月何日はこのスポーツができるといったことをやった方がいいんじゃないかと思っています。私が知っているのは板橋区。検討していただいて、いろんなスポーツが体験できるシステムをやっていただけたらと思います。
作野会長	やる機会を情報として発信することは大事だと思いますが、一方でなんでもかんでもというわけにはおそらくいかない。ある地区だけを対象にしたものなど、情報を整理したうえで、どれを発信するのか検討が必要だと思います。他の委員の方はいかがでしょうか。
白石委員	根本的なところで、2点ほどお聞きしたい。 1点目は、スポーツの定義はどうなっているのでしょうか？スポーツ庁は、通勤や一駅歩くことはスポーツという定義をしており、素敵なことだと思うのですが、実際いろんな施策を打つうえで、スポーツにもいろんな幅があるので、スポーツの定義について勉強させていただきたい。 2点目は、興味本位に近いのでデータがあれば、なのですが、スポーツ実施率のデータについて、対象が18歳以上ということで、様々な調査票の関係でこうなっていると思うのですが、実際には18歳になったから運動をするという人は世の中に居ないと思うので、18歳未満の子どもの状況がわかれば教えてほしいと思います。
谷課長	スポーツの定義についてですが、現計画の8ページに記載があり、競技スポーツだけではなく、今お話があった、通勤の歩行移動なども含め、仕事などの日常から離れ、体を動かし楽しむことはすべてスポーツだという考え方になります。単に競技スポーツだけではなく、歩くこと、レジャーとして何か楽しむことも含めてスポーツと捉えています。考え方としてはかなり幅広い定義。 あと、18歳未満の数字についてですが、具体的な数字はここにはありません。ただ、中学校の部活動の地域移行といった話などがある中で、八王子市の中学生の部活動の加入率は8割と学校教育部などから聞いています。文化部もあるので、すべてがスポーツとは言えませんが、そのような状況です。小学生となると、その数字がどうなっているかということはちょっとデータで把握できていないです。
高田委員	広く歩くことがスポーツであるという考え方でいうと、18歳未満については、体育の授業の中で運動はしています。小学校と中学校については、全国の小学5年生と中学2年生に体力運動能力調査を行っています。八王子市の中2と小5のデータも細かくわかります。教育委員会の学校体育のところにデータがあるので、参考にご覧になってください。高校については、全国調査の内容は把握していないが、各学校が行っているスポーツテストなどで把握しています。運動部活動に加入しているというのはスポーツを実施しているということの一つですが、運動部活動に加入してなくても、運動をしている子も確かにいると思います。現状の部活動の実施率は、男子で5割、女子で25%が運動部。非常に少ない。4人のうち3人が運動部に入っていないという状況。高校生の運動離れが全国的にも危惧されています。東京都のデータなども参考にして、高校生のデータを取っていくことも重要なと思います。
作野会長	他の自治体での話を伺っていると、スポーツの定義は必ず議論になります。通勤で歩くことも果たしてスポーツということについて疑問があったり、階段で上ることがスポーツなのかという議論がありますが、国の定義と足並みをそろえないと、数字の比較ができないとい

作野会長	<p>う根本的な問題もあります。その数字自体の評価に関わる。現行の推進計画では先ほど話があった定義でしたが、次期の計画のなかで検討すべきなのか、大事なことだと思います。学校のお立場では気が付かれたことやコメントなどいかがでしょうか。</p>
園山委員	<p>学校でいうと、5月中旬～10月下旬まではっきり言って熱いです。その状況下で6か月間「子どもたちをどう楽しく運動させるか。」が授業での課題となっています。6月後半になると休み時間の始まりに「熱中症指数が高いので、外で運動するのはやめましょう。」と言わなければならないことが増え、子どもたちの運動する機会を奪うことが多くなってきていることが残念に思っています。本校では、今年度プールの市による地域開放を行いました。開始直前に国内で事故があって、学童児童が安全の為に利用を控えたことにより、例年に比べて利用者数は少なくなったようです。また、学校の周りの歩道はすべてアスファルトでできており。気温が35度を超えると、小学1年生の身長だと頭部の周辺の気温は実質50度近くになることもあります。保護者もそのことを認識しているので、登下校での熱中症を恐れて子どもをプールに来させない。ということも考えられ、参加人数が少なかったのではないかと考えています。</p> <p>スポーツを通して健康寿命が長くなっていくことは、素晴らしいことです。チームスポーツに取り組むことは市民のコミュニケーションの醸成にも繋がります。いろんな人と話をすることは、高齢者の方にとってもすごくいいことだと思います。だからこそ、学校の体育館など学校施設も是非使っていただきたいと思っていますが、暑くて使いにくい問題もあるようです。</p> <p>本校の校庭には日影があまりなく、テント等熱中症を防ぐ手立てが必要です。だからといって学校が開放のためにテント等を常設することは難しいです。授業の水泳指導は、暑さ対策としてテントをプールサイドに設定していますが、雨や台風が近づくとそのままでは壊れてしまうのでその度に片付けなければなりません。そういう面で暑さを乗り越えるための施設の仕組みの在り方について、今後考えていかなければいけないと考えます。</p> <p>最後に、本校は体育館もプールも立派な施設ですが、暑さの為に、使用頻度が下がってきていることが非常に残念に思っています。市民の運動チャンスを広げていくためにも暑さ対策という観点で施設利用を考えていく必要があるのではないのでしょうか。</p>
作野会長	<p>今甲子園をやっています。休憩タイムに熱中症で倒れて救急車で運ばれるなどのことがテレビで多く伝えられていますが、これまでの施設整備の計画の中で、対自然ということは触れられていなかったのではないかなと思います。今聞いた中で、必要な時期になってきたのかなとも感じています。学校施設は所管がわかりませんが、その点はどのような状況なのでしょう？自然環境を加味した計画はありえるのでしょうか？</p>
谷課長	<p>具体的に暑さ対策というような形での計画はありません。熱中症対策に対しての国などからの通知をスポーツ団体へ共有することはありますが、そもそも計画の中で議論していくという状況はなかったです。今実際に施設や設備をこうするということは言えませんが、実際そういうことも施設整備という中では考えていかなければいけないのかなと思います。</p>
作野会長	<p>それが理由でやらないという方がいるのであれば、今後考えていく余地があるのかなと思います。</p>
志萱部長	<p>具体的な計画についてはないのですが、熱中症対策という中で、学校施設においても大規模な改修を一斉にやるのは難しい状況ですが、局地的なスポットクーラーというか、体を冷やす機械を設置する方向の検討はなされている状況になります。</p>
作野会長	<p>他の方いかがでしょうか。ご質問やコメントをいただければと思いますが、まだ続きがございますので、事務局からご説明をお願いします。</p>

谷課長

それでは続きまして、現計画の成果と課題を踏まえた「次期計画の方向性」についてご説明いたします。

まずは（１）、本市の最上位計画である「八王子未来デザイン 2040」との関係、整合性についてです。

本市は令和５年３月、市が“どのような姿を目指して、何を行っていくのか”をまとめた新たな基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」及び「八王子未来デザイン 2040」の実現に向けた具体的取り組みを示す行動計画「八王子市経営計画」を策定し、今年度から本計画に基づいた様々な取り組みを実施しております。

この計画は人口減少、少子高齢化、地球温暖化など、厳しい社会環境の変化が見込まれる 2040 年を見据えて策定したもので、スポーツの分野においては、そのような社会変化に伴い、ボランティアや指導者など、スポーツを支える活動の重要性が高まることが見込まれます。また、生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツ実施率の低い障害者に対するアプローチも今後重要になっていくことから、計画の中で「支えるスポーツの推進」及び「パラスポーツ推進」を上位計画上の重点項目として設定しております。

また、スポーツ実施率について、国及び東京都は 70%という目標を設定しておりますが、本市のスポーツ実施率は国や都と比較すると高い水準にあることから、基本構想における目標値は高く 75%という数字を設定しています。

一方、現スポーツ推進計画の目標である「総合型地域スポーツクラブの数」については、先ほどもお伝えしましたが、今後の社会情勢を鑑みると数に重きを置くことは適当ではないため、施策として設定し、クラブに対する支援も継続いたしますが、数値目標としての設定は取りやめる方向で検討していきたいと考えております。

つづいて、国との比較についてです。

スポーツ庁は昨年 3 月 25 日に第 3 期スポーツ基本計画を策定しました。この中で国は 12 の施策を掲げておりますが、同年 4 月 28 日に「スポーツ基本計画に基づくスポーツの推進に当たり、取り組んでいただきたい点について」という通知を全国の各自治体向けに発出してあります。12 のうち、自治体に取り組んでほしい 9 の施策が示されてあります。

この 9 施策の内容と現スポーツ推進計画を比較したものがこちらの表になりますが、現計画において掲げた施策は、国が自治体でも取り組むべきとしている施策を概ねカバーしている状況であります。

また、ほとんどの施策について、概ね順調に取り組んでいる状態であること、スポーツ実施率も今年度初めて目標値を超えたことから、次期計画の方向性については、基本理念や施策を一新するのではなく、改めて内容を整理したうえで、第 2 期スポーツ推進計画として、施策を継続していく必要があると考えております。

最後に、体裁についてです。

現行スポーツ推進計画は表や文字が多く、肝心の施策や取り組み内容が読み取りづらいものでした。そこで、第 2 期スポーツ推進計画は、電子媒体で読むことを想定し、取り組み内容を十分整理したうえで、八王子未来デザイン 2040 や他の市の計画と同様、横型で、タブレットでも見やすくシンプルな体裁とすることを考えております。

ここまでご説明させていただいた内容を整理したものが「4 次期計画の構成」のこちらの表になります。

<p>谷課長</p>	<p>名称は「第2期スポーツ推進計画」、期間は令和7年から令和16年の10年間とし、基本理念や基本施策は内容を整理したうえで継続していきたいと考えています。</p> <p>つづきまして、検討体制についてです。</p> <p>第2期スポーツ推進計画について、今後、計画の素案策定について教育委員会から本審議会へ諮問をいたします。</p> <p>内容の検討にあたっては事務局でベースを作成し、審議会委員の皆様からのご意見を取り入れながら、作成していく予定です。</p> <p>また、素案ベースの作成にあたっては、庁内関係所管と協議、連携するとともに、市政世論調査や市政モニターを活用し、市民の声も反映させていきます。</p> <p>素案策定後は、パブリックコメントを実施し、市民の皆さまのご意見を伺ったうえで、計画を策定していきたいと考えております。</p> <p>また、こちらに記載はありませんが、今年度から施行した「こども基本法」におきまして、区市町村で策定するこども施策については、子どもの意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとされております。</p> <p>本計画においても、ジュニア育成事業等、子どものスポーツに関する施策もあることから、子どもの意見を取り入れるべきと考えております。</p> <p>その際、審議会委員に学校関係者の方がいらっしゃることから、園山委員と三浦委員の在職校である由木中央小学校及び打越中学校の児童・生徒から意見を聴取できればと考えております。具体的な内容や手法は今後検討となりますが、両委員につきましては、是非ご協力いただければ幸いです。</p> <p>最後に今後のスケジュールについてです</p> <p>今後、庁内の手続きを済ませ、10月下旬の教育定例会にて第2期スポーツ推進計画の素案作成について付議し、教育委員会における議決後、スポーツ推進審議会へ正式に諮問させていただきます。</p> <p>その後、年明け1月から9月までの期間、2～3か月に1回のペースで審議会を開催させていただき、素案の作成をしていきたいと考えております。</p> <p>素案策定後、教育委員会へ答申していただき、いただいた第2期スポーツ推進計画素案を教育委員会にて協議し、令和6年12月を目途にパブリックコメントを実施していければと考えております。</p> <p>パブリックコメントで頂いた意見等を計画に反映し、令和7年3月に計画を策定していく予定となっております。</p> <p>市からの説明は以上です。</p>
<p>作野会長</p>	<p>市のブランドデザインですとか、市の計画、国との比較、体制、具体的なスケジュール、検討体制など、ご説明いただきましたが、もう少し伺いたいということがあればご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか？</p>
<p>泉委員</p>	<p>本校は手足の不自由な子どもたち中心の学校ですが、障害のある方たちのスポーツ推進について、大変うれしく思い、引き続き是非お願いしたいと思います。2020のテーマが多様性と調和ということは忘れてはいけないと思います。</p> <p>本校の子どもたちは運動が難しく、単純な運動といったことよりも、共通の目標をもって行</p>

泉委員	<p>うものなどもスポーツに入ってくると思っています。病虚弱な子どもたちを抱える中で、なかなか外には出られないという状況もあるので、e スポーツも最近言葉として出てきています。どこか片隅で、そういうものもあるということを知っていただきたいと思います。</p> <p>スポーツというものは幅広く、単純に運動というところではとらえきれないところもあって、特に特別支援学校の子どもたちはそういうところもあり、ポッチャ推進などは非常にありがたいと思います。</p> <p>是非ボランティアマインド、障害者理解、日本人としての自覚と誇りなど、私たちが思い出しながら、八王子市の推進計画を進めていただきたい。障害者スポーツは多様で、高齢者の方と共通のテーマだったりする。是非、生涯スポーツとしての認識を広めていただければと思いますし、様々な取り組みが進められているところですので、引き続き八王子市の未来デザインの中に障害スポーツという項目も引き続きうまく入れていただきければありがたいです。本校の体育館も含め、特別支援学校の活用、連携をしながら都立学校の活用促進を取組めればいいなと思います。</p>
作野会長	<p>ありがとうございます。ポッチャが盛り上がったという発言が前回の審議会であったと思います。当然スポーツであるのとらえていますし、対象の多様性という観点から、e スポーツについても是非議論していきたい。</p>
松本委員	<p>我々スポーツ推進委員の活動でポッチャの派遣指導を行っています。先日、先生たちの研修ということで、ポッチャの指導講習を行いました。2時間くらい行って、ポッチャに触れたことがない先生方が2時間やって、とても楽しい、学校に持ち帰って是非やりたいという声が上がっていました。一方で、ポッチャの用具が学校にないという声がありました。教育委員会で貸出しはしているが、やりたいときにすぐやれないというデメリットがあり、進めたくても進められないという声をいただきました。お金がかかることかと思いますが、各学校に設置するなどすればより普及すると思います。</p>
作野会長	<p>大事なご指摘だと思います。教える人、場所があっても道具が無いとできない。とても大事な視点だと思います。</p>
高田委員	<p>東京都のスポーツ推進総合計画が令和6年度までだと思います。令和7年度から都も出してくると思います。ちょうど重なると思いますが、そこは意識しなくてよいものなのでしょうか？数値目標などは重複している点もあると思いますが、八王子は八王子で、あまり都の計画は俯瞰しなくてよいのでしょうか？タイミングが一緒なもので、どのように進めていくのか事務局の考えがあれば教えていただきたい。</p>
谷課長	<p>東京都の計画は内容の把握はしています。都が出す指標として18歳以上のスポーツ実施率、健康寿命、共生社会、地域経済の活性化などを挙げており、我々の計画とずれたものではないという認識でいます。東京都の動向について、全く無視することにはならないので、そのあたりの動向も注視していきたいと思っています。</p>
高田委員	<p>都の計画が出て、翌年に市町村が出るということが他の県ではあります。都道府県が出してから市が出すことが多いと思います。今回は重なっている。都もパブコメを行うので、そこで見る事はできると思います。我々も同時進行ですので、我々があまり議論しなかったことが出てしまうとあまりよくないのでは？八王子も都の一員ですので、そこはどういう風にやっていったいいのかなど、心配な点があります。</p>
作野会長	<p>策定中の計画を参酌するのは難しいところがあるのかなというところですが、現行の計画の考え方としてはどうでしょうか？</p>
谷課長	<p>国の第3期の計画を受け、東京都がどのようにするのは確かに注目すべき点ではあります。スケジュール感的には、課題になるかなと思います。八王子市の考え方としては、スポーツ</p>

谷課長	推進計画単体で見直しをしていくわけではなく、生涯学習プランというより大きな生涯学習という枠組みの中で、市としてのスポーツをとらえていくという考え方でいます。現計画を1年延長し11年間としているのは、生涯学習プランの改定と合わせているためです。実際東京都の考え方をどのように取り入れていくかということについて、大きな課題だと思いますが、八王子市としてはスポーツ推進計画と生涯学習プランを併せて進めていこうという考えです。東京都の考え方などをできる限り情報収集をしていかなければならないかなと思っています。
志萱部長	東京都の計画を考慮し、1年ずらしている計画もあれば、同時スタートという計画もあります。必ずしも都の計画に直接拘束されるものではありません。都の審議会会議録などからも情報を得ながら、その中で方向性が違うのであれば審議会で議論していきたいと思います。最終的なもので、目標値などが大きく食い違うのであれば、計画を公表した後でも、指標の修正などはできないものではないと考えています。
作野会長	国の計画も公表されていますので、都の計画も大きく変わるものではなかろうという見通しの中で進めていくのだと思います。その他いかがでしょうか。
白石委員	第3期スポーツ計画と八王子の施策が概ねカバーできているということで非常に素晴らしいことだと思いますが、一方で何か課題というか、ここを詰めていけばより良いものになるというか、そういったものがあればお聞きしたい。特に、国の第3期スポーツ推進計画において、その中で象徴的なものとしてDXやスポーツにおける成長産業化などがある。急にこういったものを実現するという事は難易度が高いと推察しつつも、課題点としてとらえていることや具体的な施策があれば教えていただきたい。
谷課長	仰るとおり、DXは我々も課題として認識しています。我々が今までやってきたことはSNSであったり、紙から電子化するという変更。いわゆるDXではないと思っています。実際DXという観点でスポーツにおいて何ができるのかということは、非常に難しいので、是非皆さまのお知恵を伺えればと思います。電子化は進めていますが、DXを推進すると言っても、どうすればよいかわからないといった状況です。
作野会長	スポーツ界におけるDXの推進ということについて、今お話しがありましたように、これまで行ってきた情報提供について、DXというものをにらみつつ変えていこうというのが現実的な対応になるかと思います。何か白石さんの中でアイデアはおありでしょうか？
白石委員	市の取り組みは把握しておりませんが、都、市など、それぞれのDXに対する考えがあるので、統一的な考え方はないのかなと思います。何がDXかという話が出てくるのが重要だと考えます。どういったことを変えていくといろいろなものが効率化されるというか、ものすごい先進的なものがフォーカスされると思うが、急にそういうところに行きつけないと思います。適切なステップがあると思います。どのように話して政策に落とし込んでいくのか非常に興味があります。まだ答えはない状態です。
作野会長	市の計画の中で具体的なコンテンツを検討する段階でお考えいただければと思います。
白石委員	若い世代は驚くほどデジタルネイティブ。生まれながらスマホを持っている世代にとって、そもそもDXとは、という感覚があると思います。こういう場に若い方々をお招きして、自分達ならどうするかなどを聞くと、斬新な意見が出てくると思います。
高田委員	予約システムなどはデジタル化してますでしょうか？ まだアナログでやっているようなものがあるのであれば、できるところから。あまり大それたことではなく、できそうなことからやればよいと思います。
園山委員	駅やバスと連携したものがアプリのようなものがあればと思います。例えば、歩いているとスポーツ情報が通知されるなど、そういったものがあればいいと思います。

園山委員	<p>鍮水のあたりは歩道と車道が完全に分かれています。例えば走るところをゴムみたいなものに変えてしまうだけでも違う、ライトが並んでついているだけで、会社帰りに走ろうかなと、思う方がいると思います。その街のところどころで情報が出てくるようになれば、DXとしてはとっつきやすいのかなと思います。</p> <p>八王子はバスが全域に走っているの、バス会社と提携して、バスの行く方面で開催されるスポーツ情報が通知されるなど、そういった取り組みができればいい世界になると思います。</p> <p>あくまでそういった端末を持っている人前提の話にはなりますが、最近学校だよりがメールになったのですが、途端に見なくなる。CMみたいな、アプリを入れておくと、八王子の情報がポンポン入っていくものが開発され、スポーツや、日本遺産などの情報が発信される世界があってもいいと思います。</p>
作野会長	<p>学生を見ているが、紙を嫌がります。中高生の方がケータイで情報を探すことに慣れていないので、世代による差を考えなければいけないと思います。施設情報などのスポーツ環境×DXというものがとっつきやすいのかなと思います。そのあたりも中身を協議する段階で議論ができればと思います。貴重なご意見ありがとうございます。</p>
泉委員	<p>障害のある人にとって、デジタルディバイドがかなり深刻です。とにかく情報が入ってこない。うちの学校は盲も聾も肢体不自由もいて、情報格差を解消するため、すごくユニバーサルな視点で、情報発信について工夫しています。情報格差を埋めていくということは重要。体裁については是非検討してほしいと思います。盲、聾の方は本当に情報が入らなくて、災害の時などは取り残されてしまう。文字情報だけでも違って、タッチパネルにちょっと触れると情報が出てくるみたいなことで違います。今は小学生でもギガ端末を使うことに慣れている。デジタル端末で情報を活用できるみたいなものが出てくると、広がりが出てくるのかなと思います。</p>
作野会長	<p>情報格差については、クリアしなければいけない課題であると思います。</p>
松井委員	<p>これからのことを考えると、DXは重要。できる物からやるのが重要。できるもの、しなくてはいけないものから取り組んでいただきたい。</p>
作野会長	<p>総合型地域スポーツクラブのお立場で、これから考えてくれればいいのかといったお考えはありますか？</p>
池田委員	<p>私たちは小学校主体でやっているのですが、学校施設の改修などで、長期間使えない、地震対策、エアコンを入れるといった作業などで使えない時期がありました。同じ地区の中学校に打診したところ、私たちの地区は自分たちで鍵を開けているのですが、その中学校は委託をされている方がいて、その方から「自分の時間が無くなるから貸せない。今登録している団体以外は入れない」と言われました。3 か月体育館を使っている団体は全く何もできず、どこか借りにいかなければならない。他の地区の話を知ると、小学校が使えないのであれば、近くの中学校で借りられるというケースがあります。横川地区では貸せないと言われました。同じ教育委員会でやっていると思うので、これからもそういった可能性があるの、そういう時は、歩いて何分のところの小学校と中学校なので、中学校でできた方がいいと思います。前は元八小学校までお願いに行き、何とか貸してもらったりとか。そうしないとどんどん人数が減っていくことになっていきますよね。</p>
作野会長	<p>学校開放の運営委員会という形式ではなく、八王子では直接学校がやっているときいています。学校開放制度の見直しを課題として掲げているので、是非また計画の中で議論していきたいと思います。</p>
志萱部長	<p>学校施設はスポーツをする環境として有効に活用できるよう、我々は考えなければなら</p>

志萱部長	い。学校開放については、学校教育部の方で主管していますが、今のような話は、利用者の方が、できるだけスポーツができる環境を保持できることが望ましいので、学校教育部と協議をしながら、スポーツをする環境が継続できる方向にしていきたいと考えています。
作野会長	そろそろ時間になります。他に何かご意見はございますでしょうか？ なければ、議題についてはこれで終了したいと思います。 それでは次に報告事項「IFSC ボルダークワールドカップ 2023 八王子の実施結果について」について、事務局から説明をお願いします。
谷課長	資料 2 をご覧ください。 報告趣旨としては IFSC ボルダークワールドカップ 2023 八王子について、大会が終了しましたので、実施結果についてご報告するものです。 本市では 4 年ぶり 4 回目となるスポーツクライミングの国際大会で、4 月 21 日から 23 日まで 3 日間、エスフォルタアリーナ八王子で開催されました。 主催は国際スポーツクライミング連盟と日本山岳スポーツクライミング協会、今大会には、40 の国と地域から男子 91 名、女子 74 名が出場しました。この数はワールドカップという規模で行くと、かなり多いということでした。 来場者数は 3 日間で 5,107 名、WEB ニュースに 61 件、新聞 17 件、TV 放映 6 件のメディア露出があったと主催者から報告がありました。 また、今大会について、八王子市においては約 1 億 6 千万円の経済波及効果が算出されております。 続いて、大会において実施した本市の主な取り組みについてご報告いたします。 まず、市民の無料招待です。主催者と調整し、準決勝・決勝に市民の方を無料でご招待しました。延 1,224 組の方から申し込まれ、2 日間で 417 名の方に観戦いただきました。 続いて市内小中学生の無料観戦、競技体験です。 小学校、中学校校長連絡会で周知し、市内の小学校計 6 校が授業の一環として会場に赴き、児童計 672 名が大会を観戦しました。また、会場内に設置された体験ウォールを活用し、競技体験も行いました。 続いて記念品の贈呈です。今年の 11 月、日本遺産フェスティバルが控えていることもあり、日本遺産として登録された「桑都物語」という文字を市内の染物業者に 1 枚 1 枚手染めてしていただき、T シャツを出場する選手へ贈呈しました。 また、副賞の贈呈として、本市の伝統工芸品である八王子織物のネクタイとストールを 1 位から 3 位までの入賞者へ贈呈し、伝統工芸品を PR しました。 続いて通訳案内の配置です 海外からの観戦者や選手、関係者へのおもてなしとして、八王子国際協会と連携し、会場内に通訳案内を配置しました。 続いて医療協力です。 東京医科大学八王子医療センターとの包括連携協定に基づき、会場内に医療スタッフを配置しました。 また、市内のボルダリングジムとも連携しまして、JR 八王子駅最寄りのボルダリングジムで、選手の練習場所を確保しました。出場する選手は無料で施設を利用することができ、1 日あたり 50 名を超える選手にご利用いただきました。 また、世界中に八王子市を広く PR できる機会ですので、会場内のサブアリーナでは物販や飲食販売の他、パブリックビューイングでの観戦や競技体験ができる EXPO が開催されまし

<p>谷課長</p>	<p>た。本市の食の魅力 PR するため、八王子観光コンベンション協会と連携し、市内の企業に出展いただきました。</p> <p>最後にレセプションパーティの開催です。</p> <p>選手、関係者向けに、本市の魅力発信を目的に、大会終了後、会場内でレセプションパーティを開催しました。本市の伝統芸能である八王子芸妓衆により舞を披露しました。計 200 名以上の方に御参加いただき、かなり盛況でした。</p> <p>今後も八王子市でこうした国際スポーツ大会が開催できるよう継続的に本市で開催できるよう主催者と調整していく予定です。</p> <p>報告は以上です。</p>
<p>作野会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>ワールドカップがバスケ、ラグビーと控えています。世界レベルのパフォーマンスを見る事は非常に素晴らしいことだと思います。こうした観るスポーツも計画に入れられればと思います。</p> <p>続いて「その他」ですが、事務局もしくは皆様より何かございますか？</p>
<p>谷課長</p>	<p>事務連絡として、次回の審議会は年明け 1 月頃を予定しています。日程は会長・副会長と調整し、あらためて通知いたします。</p> <p>本日皆様にご協議いただいた内容をもって教育定例会で協議し、第 2 期スポーツ推進計画の素案について、皆様へ諮問させていただく予定です。</p> <p>以上です。</p>
<p>作野会長</p>	<p>本日の案件は全て終了しました。皆様お忙しいところお集まりいただきありがとうございました。以上で、本日のスポーツ推進審議会を閉会いたします。今後とも皆様よろしく願います。</p>